

「パッシブ換気システムにして本当に良かった。冬にいい空気と暖かさが両立するのは助かります」と奥様。



3. 2階にあるご主人の書斎。床や棚の木は1階とは違う落ち着いた色合いだ。4. 書斎の奥にあるのが、何と喫煙室。室内で吸うと煙が気になるが、ペランダで吸うのは寒い。ここでなら心置きなく吸える。5. キッチン動線スペースを通常よりも広く取ったのは奥様の希望。作業がしやすいのはもちろん、子供が駆け寄ってきたときもこの広さなら安心だ。6. キッチンからはリビング全体が見渡せ、料理をしながらも常に子供の動きを見守ることができる。



1. 煙突のような2本の排気塔が特徴的な外観。2. パッシブ換気システムの施工実績トップクラスを誇る同社。その良さをぜひ体感してほしいと語る佐藤社長。



7. 左奥の扉は、換気と断熱だけで涼しく保つ食品庫。8-9. 外壁の給気口から入り、家の中を循環した空気は、最終的に2階天井の排気口から外に出る。排気口を開閉するのは人でもセンサーでもなく、室内の湿度で伸縮するビニールのパネ。何もなくても必要な時にだけ換気を促進する、とても賢い仕組みだ。



大平洋建業 株式会社

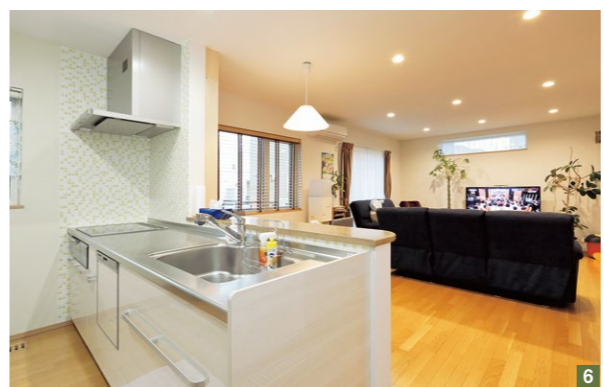
札幌市豊平区西岡4条14丁目2-13
TEL.011-584-3071
http://www.t-kengyo.com/

2本の排気塔が特徴的なYさんの家。中に入ると、空気が新鮮であることに気付く。

「この家にはパッシブ換気システムを採用しているんですよ」と教えてくれたのは、設計・施工した『大平洋建業』の佐藤誠社長。外にある給気口から家の床下に取り入れた外気は、自らの力で上昇。室内や壁の中を通過して、ゆっくりと自然に各部屋をめぐる。最後は屋根の排気筒から排気されるという仕組みだ。冬は床下の放熱器で暖められた空気がめぐるのので、家全体が暖まる。このパッシブ換気システムは、全室の暖房と換気を同時に行う、北海道生まれの暖房換気システムなのだ。スイッチやフィルター、ダクトがないため、メンテナンスが基本的に不要。家が存在する限り、24時間自然に換気し続ける。

ここに暮らすYさん一家は、ご主人と奥様、4歳の娘さんの3人暮らし。完成以来すでに2度の冬を経験している。「真冬でも本当に暖かいです。寝ている間に掛布団をよけてしまっくらい」と奥様。その効果を実感している。

新築のきっかけは子供の誕生だった。最初からそれほど本気だったわけではないが、住宅展示場を冷やかして半分で見て回るうちに、



真剣に考えるようになったという。大平洋建業とはもともとご主人の仕事を通じての縁だったが、佐藤社長のパッシブ換気システムの話にまずご主人が賛同。やがて奥様も惚れ込んだ。

ご主人は専用ソフトを使い、自ら図面を引いて間取りを検討。奥様が細かく意見を伝えた。それに佐藤社長が専門的かつ現実的な検討を加えながら、できるだけ希望を尊重して設計した。

1階と2階では、床など木の部分の色が違う。「1階はとにかく明るい色にしたかったんです。2階は落ち着いた濃いめの色。造り付けの棚なども色をそろえています」と奥様。2階には寝室の他に喫煙室が設けられていた。「空気が循環するので、たばこをこ以外で吸ってはいけないことにしているんです」。

大平洋建業が重視するのは、身体と環境に優しい家であること。そのため、材料にはできるだけ自然素材を使用する。自然の原理を利用したパッシブ換気システムもその考え方につながる。同社ではその良さを知ってもらおうと、白老町のモデルハウスで宿泊体験を実施中。寒い季節に訪れて、新鮮で暖かい空気を体感したい。